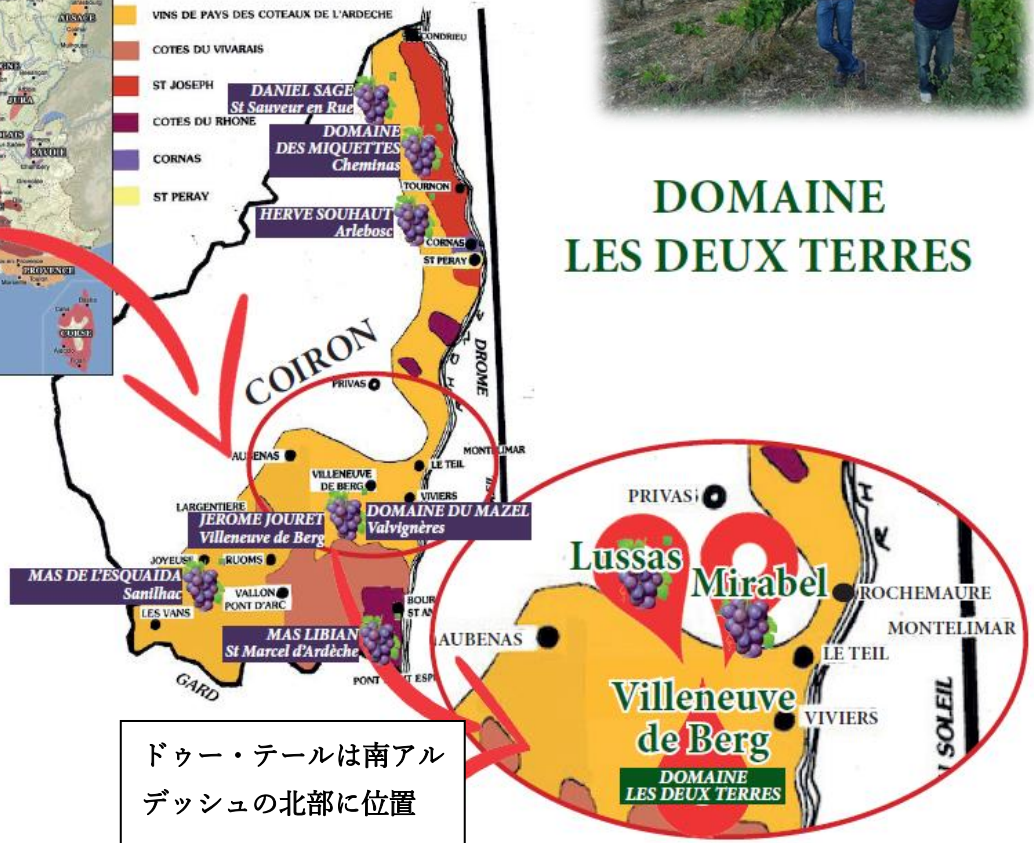


ARDECHE VINYARDS

- VINS DE PAYS DES COTEAUX DE L'ARDECHE
- COTES DU VIVARAIS
- ST JOSEPH
- COTES DU RHONE
- CORNAS
- ST PERAY



DOMAINE LES DEUX TERRES



ドゥー・テールは南アル
デッシュの北部に位置



～アルデッシュの特徴～

●南北100kmの産地

- ・北アルデッシュ：内陸性気候 フレッシュさのあるシラーが魅力、グルナッシュの栽培は難しい
- ・南アルデッシュ：地中海性気候 日照量が多い。グルナッシュ、カリニャン他多様な品種が植えられている

【エピソード・セヴノル】

ガール県から南アルデッシュにかけて、東西にセヴェンヌ山脈（高原）があるが、この山脈付近で、南の地中海から湿った暖かい空気と、北の大陸からの冷たい空気がぶつかり、激しい豪雨をもたらす。主に秋に発生するが、春に発生することもある。ドゥー・テールの畑はセヴェンヌの北に位置し、雨が全て降りきったあとの乾燥した空気が流れ込むため直接影響を受けることはあまりなく、降雨量が少ない。だが、南の湿った空気の勢力が強い年は、セヴェンヌ地方と同じように激しい豪雨に見舞われることもある。

【ドゥー・テールの畑をより詳しく】

- フランス革命記念日の7月14日頃に雨が降らないと日照りの心配がある
- 畑にマスタード、アンジェリア、燕麦、キュウコンエンドウを植えている。これらの植物の根と共生している菌の作用により土壌中の窒素分が豊かになり、健全なブドウの生育&ワインの発酵が可能になる。さらに、植物が根付くことにより土壌が硬くならず、また雨で流れない。多様な昆虫が生存。
- リュサスのバザルト（玄武岩）土壌は、火山の火砕流の堆積により形成された。地面は火山噴火で隆起。
- リュサスの畑は、ミラベルの北北西5キロに位置。バザルトはリュサスの北側に多くあり、南に向かって低地となり、マルヌになる。（バザルト75%、マルヌ25%）





リュサス畑 (マニユエル)

【特徴】 約 7ha。標高 350m の台地。フランス中央高地最南部のコワロン台地から吹きおろす北風が強い（最大風速 80m）。シャルドネ、カリニャン等、繊細な品種はオイディウムになりやすい。果樹園、農園、葡萄畑などが混在するポリカルチャー地域。

【土壌】 75%バザルト(玄武岩) 非常に硬い黒石が地下 2m の範囲で点在し、保湿性が高い。25%マルヌ・カルケール(泥土石灰質)は、一度乾燥すると非常に硬くなり、保湿がしにくい。

【味わい】 バザルトはフレッシュさを与え、暑い年でもバランスを取りやすく、キレのある酸が特徴。

【歴史】 1920 年代から標高の高い地区でブドウ栽培が始まり、1980 年代から低地の果樹園が徐々にブドウに植え替えられた

ミラベル畑 (ヴァンサン)

【特徴】 約 5ha。コワロン台地からの北風の影響は少なく、湿気が溜まりやすい。モンフルーリー丘は標高 350m~400m の緩やかな斜度にある。グルナツシュが、ミルデューの病害になりやすい。

【土壌】 アルジロ・カルケール(粘土石灰質)。石灰石が表土 1m 内に点在。「プティ・ブルゴーニュ」と呼ばれる良質な石灰粘土質土壌がある。比較的乾燥した土壌。

【味わい】 ストラクチャーのしっかりしたワインができ、暑い年はボリューム豊かなワインになりやすい。

【歴史】 1900 年代からブドウ栽培が始まり、アーモンド、さくらんぼ、オリーブが畑まわりに点在したが、1960 年代以降ブドウが多く植樹された地区

品種	リュサス(約 7ha)		ミラベル(約 5ha)
	バザルト(玄武岩) ha	マルヌ・カルケール(泥土石灰質) ha	アルジロ・カルケール(粘土石灰質) ha
メルロー	2.1		0.2
グルナツシュ	2.1		1.73
カリニャン	0.7		0.17
シラー	0.25		1.48
サンソー	0.13		0.18
ユニブラン	0.15		
シャルドネ		1.3	
カベルネソーヴィニオン		0.48	
ヴィオニエ			1.15

~今後の二人のチャレンジ~

1. ドメーヌでピノノワールにチャレンジ
2. ロゼとマセラシオン白の再チャレンジ
3. 今後の植樹予定 【リュサス】メルロー 【ミラベル】グルナツシュ、シャルドネ
4. それぞれのテロワールで単一畑のワインをチャレンジ